

海蔵寺だより

第9号

平成29年3月
発行

じとうみよう

自灯明

～依頼心を捨てなさい～ 釈尊

頼りにする人がいなくなっても生きていかなくはなりません。

今まで頼りにしていた人がなくなったらどうやって生きていけばいいのでしょうか。そんな時禅語では「自分が^{とうみよう}灯明」だということに気づきなさい、と言います。

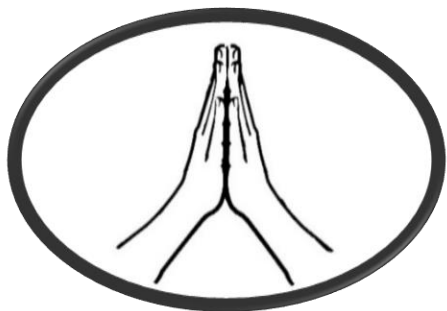


そして、これと対句になって「^{ほうとうみよう}法灯明」という言葉があります。

自分自身がまだ頼りないうちは「仏の教えがともしび」になるというのです。仏の教えは足元を照らすひかりになり、迷い悩む闇で道を照らしてくれます。「^{ほうとうみよう}法灯明」を頼りに進むうち、やがて自分自身が「^{じとうみよう}自灯明」となっていくのです。

こうして「^{じとうみよう}自灯明」がとめれば、もうひとのせいにしてたり、助けてくれないと駄々をこねることもなくなります。

あなたが進む道を照らしてくれるのは、消えることなくあなたの前に現れている^{らしんばん}羅針盤としての仏の教え。そして、そのひかりをまとったあなた自身なのです。



人は本来、誰でも正しいこと、悪いことはわかっているのだと思います。だから自分の「心の声」に従って生きていけば、そんなに間違いは起こさないと思うのです。

私は自分の「心の声」をしっかりさせるのが仏教だと思っています。教えのどんなことでも、全て「お悟り」につながっているといわれ、自分に合った、あるいはできそうな教えを、一つでもいいからそれを一生実行していくのが本当の信仰だと考えます。そうすれば「法灯明」のお導きにより、「自灯明」がしっかりしたものになるのだと思えるのです。

意外に、自分の「心の声」というのは確かなものではないのでしょうか？

住職 花田 雄幸

お勤めの時間について のお願い

当寺ではお参りの際は、お勤めの時間をあらかじめ予約していただいています。

最近では、ほぼ 100%の方がいきなりのお参りで来られるということなく、きちんと予約の連絡を下さっています。そのため、昔のようにいきなり来られた方をお断りすることもなく、きちんとおつとめを上げることができ、とてもあずましい？限りです。檀家さんというのは本当にありがたいものだなあと 생각합니다。

そこで確認したいことがひとつ。例えば【10 時のおつとめ】のお約束だとします。その際は【10 時からおつとめを始める】ということです。中には、こちらの説明不足もあるためか、10 時ちょうどに来られ、タバタとお供え物をしておつとめ、ということもあり、残念に思うこともけっこうあります。

せっかくですので、20 分ほど前にはお越し
いただき、ご家族で供物やお花をお供え、お茶
など召し上がりながら始まりをお待ちいただ
けたらなあと思います。（でも、皆さんお忙しいの

編集後記

昨日は東日本大震災から丸六年目の“その日”だった。

ちょうど私はある百貨店の中において、流れていた“黙とうを促す放送”に従い、周りの多くの人と同じように、おそらくは長くとも 30 秒ほどの短い黙とうを捧げてきた。

思えば少しの日常の中の非日常だった。でも皆がきっと感じたはずだ。こんな買い物の途中でも、カフェで

寺務室の

看板できました

今までも小さな看板があるにはあったのです。

ところがここ数年、寺務室入り口の“のれん”の下に隠れていて、時々「寺務室ってどこ?!」っていう方がいて…。確かに、わかりにくいかも?っていうことで…。

新しい看板を かけました。

これで、寺務室? あれ?どこ?っていうことがなくなるのでは? (もちろん住職揮毫です (^_^))



あと、寺務室に小さなソファを置きました。今までも古いものを置いてあったんですが、低すぎて、座ったはいいいけれど、

立ち上がるのに「オッコラショ!」ってかけ声が必要でした。今回は幾分硬めでちょうどいい感じですよ。楽にご利用いただけるのでは?と思っています。(もちろん住職もひと息入れるのによく利用してます'▽`)*)



コーヒーをすすっている途中でも、非日常は時として急にやってくるのだ、と。6年前がそうであったように。

黙とうの後、何事もなかったかのように、それぞれが日常に戻って買い物続け、コーヒーをすすする。

なんとありがたいことだろう!

合掌